



13  
2257  
卷 22



繪本烈戦功記後篇卷之十

目錄

上枚謙信鎮能勿事

上枚勢能州渡海之圖

武田勝頼不受謙信之和議事

謙信陷七尾城事

謙信軍裝見物之圖

上枚謙信武德之事

妖人怖武威圖

繪本烈戦功記後篇卷之十







手を拍う

つや否。思ふに著と落。拍子。懐て曰。惜哉。其は後  
去ること。古今又稀ある名將として。其器。千其万雄の上  
を。一のの。合戦の能あると。其ひ。力と落。たり。呼  
後去去て。後去去し。扱もく。と。む。り。又。落。後。救。り。及。ん  
け。ら。う。猶。て。中。条。家。の。使。者。に。對。面。而。て。氏。改。又。然。志。と。謝  
て。ぞ。ぬ。さ。れ。け。る。然。亦。く。能。や。七。尾。の。城。主。白。山。修。理。丈。夫  
我。別。越。中。由。は。在。て。羽。擧。と。上。杉。家。又。送。り。次。而。使。者。と  
は。越。危。急。と。告。て。援。兵。と。乞。事。頼。也。其。由。縁。什。麼。と。云。は  
抑。畠。山。家。の。旅。登。五。の。守。護。に。て。歴。た。る。久。名。る。ら。う。曾。而。藤。佐  
と。此。合。並。け。れ。ど。も。去。る。天。文。二。年。和。睦。よ。お。よ。び。て。我。別。が  
舍。身。孫。也。我。春。十。三。才。う。る。と。人。修。と。し。て。越。後。五。春。日。己

三

三

之に依

へ。持送りけるに。以孫も。頗。人。類。の。う。ま。才。智。勇。略。を。た  
ち。う。ご。ら。に。よ。り。藤。佐。の。影。を。他。に。異。ら。じ。く。孫。も。毎。又  
後。佐。の。侍。又。在。て。軍。謀。智。計。操。愛。の。う。け。ひ。死。と。熟。練。而  
十。四。歳。の。時。始。て。一。子。に。大。お。と。成。武。功。を。柄。と。見。し。け。る。又  
より。後。佐。當。譽。の。余。り。事。不。し。て。上。杉。孫。も。我。春。と  
名。を。承。り。せ。孫。精。が。妹。と。ん。是。又。妻。あ。り。せ。ら。れ。け。る。ほ。ど。を。れ。ど。も  
孫。も。我。が。舍。身。兄。白。山。修。理。丈。夫。我。別。の。是。又。及。し。て。智。勇。に  
之。一。く。曾。而。千。家。光。共。と。ふ。和。の。り。有。け。る。藤。佐。家。老。遊。佐  
又。他。也。温。井。佐。中。也。同。小。麾。下。也。長。對。る。也。同。名。を。承。る。也。  
平。三。右。左。衛。門。卷。田。法。政。也。三。宅。後。佐。也。等。と。佐。又。及。し。て。舍。身。兄  
と。追。出。し。と。計。較。る。と。我。別。是。と。知。り。て。其。と。洞。練。の。為。に。追。出

446

戦国史記二卷卷之二

三







烈戦功記二篇卷之十



五

上<sup>う</sup>拔<sup>は</sup>勢<sup>せ</sup>  
 能<sup>の</sup>州<sup>しゅう</sup>  
 渡<sup>と</sup>海<sup>かい</sup>  
 の<sup>の</sup>國<sup>くに</sup>

烈戦功記二篇卷之十



五



之に依り

之無

中。もてしらのつらうり。由り。後。自。つ。助。
損。高。山。の。守。護。修。理。を。委。我。別。子。内。包。に。溺。氏。の。弊。と。思。ふ。政。及。不。
正。而。必。家。の。傾。覆。と。致。ん。と。守。後。之。一。門。家。老。共。後。合。の。上。我。別。の。
一。子。我。隆。と。ん。家。督。又。皆。之。我。別。の。越。中。へ。隱。居。致。し。そ。長。御。
發。動。の。多。う。り。共。皆。因。之。の。依。り。也。又。云。達。之。後。の。多。う。と。之。
を。誅。す。殊。又。復。來。入。寇。と。蒙。り。上。牧。家。へ。討。異。變。と。抱。か。る。も。
既。之。お。愛。於。塵。下。に。屬。於。人。變。の。依。り。何。程。あ。て。も。持。出。
や。べ。り。り。高。内。合。戦。の。後。は。古。を。免。と。り。右。我。別。隱。居。
の。多。う。金。上。と。主。君。の。家。と。思。ひ。下。民。の。弊。と。憐。む。治。世。安。民。
の。計。り。と。り。又。云。け。後。臣。執。一。終。べ。し。と。恐。ひ。け。我。春。
系。合。是。と。す。先。兵。と。ひ。り。急。使。と。ん。越。後。へ。す。の。お。り。
と。云。上。と。後。佐。の。命。と。わ。け。け。る。所。又。後。佐。委。細。と。す。と。れ

差

しんりよ。我。別。外。出。の。儀。へ。治。世。安。民。の。為。め。又。高。家。と。對。
係。重。重。と。す。我。別。外。出。の。儀。へ。治。世。安。民。の。為。め。又。高。家。と。對。
て。も。子。細。さ。れ。の。趣。り。又。實。と。あ。り。あ。り。と。征。討。は。不。及。り。の。我。
別。弘。明。の。上。無。り。の。仕。を。と。致。帥。と。旋。中。べ。れ。の。旨。今。せ。れ。
て。別。又。後。佐。の。連。書。と。添。て。使。者。と。致。され。け。は。我。美。系。合。
等。り。と。致。し。ひ。列。七。尾。の。城。又。入。り。白。田。山。我。隆。又。西。留。
と。家。老。共。より。ふ。忠。と。懷。ぶ。の。程。紙。と。致。後。登。平。平均。と。
越。後。と。ぞ。め。り。ける。實。又。上。牧。勢。一。箭。も。不。放。而。能。一。士。忽。至。
あ。又。屬。と。り。り。後。佐。の。武。威。推。す。可。織。
武。田。勝。頼。不。受。謙。信。之。和。儀。事。
平。義。又。甲。國。の。後。去。逝。去。り。り。の。所。と。世。又。か。れ。り。け。後。
尾。呂。の。小。島。家。へ。も。寄。り。て。後。永。を。拊。て。天。下。已。又。定。れ。り

代

則我力已二



元

と思われれども。今於越中又後佐あり。先是又入魂而共  
 勇貌と雖んども。後々云入られて後。後佐甲兵の武田人  
 去佐也。如又佐佐木信元。後佐へを助と送る。屢交  
 情とす。これけり。後佐亦返礼あり。疎ましく交を通ぜ  
 られける。佐永。けりよこそ能也。越中と手に入んと計後れ  
 ども。能越。友の備牧。え末。富士の幕下たり。近年上佐  
 家。越中。の多。今。小。家。より。つ。た。ま。と。入。る。と  
 成。り。け。り。佐。永。と。い。ふ。先。越。中。本。ぶ。の。城。を。保  
 安。藝。寺。長。純。と。い。ふ。佐。永。妹。と。嫁。合。縁。者。と。さ。り。る。是。と  
 基。と。す。次。子。に。能。越。の。備。士。と。あ。り。け。り。と。拱。而。友。と。い。ふ  
 と。ど。計。ら。れ。る。と。上。佐。保。佐。と。い。ふ。と。又。横。ら。れ。拍。越。中。に

長

諸。多。中。に。も。保。長。純。の。子。家。の。と。上。佐。保。佐。と。い。ふ。と。又。横。ら。れ。拍。越。中。に  
 富士。我。列。が。弟。た。れ。り。別。白。高。家。と。い。ふ。と。ある。一。つ。ち。う。り。成  
 佐。永。長。あ。り。予。に。登。之。の。入。魂。の。体。と。見。し。内。入。野。心。と。保。林  
 保。と。妹。聳。と。有。越。中。へ。入。り。保。林。を。扱。り。曾。く  
 武。田。佐。也。け。好。曲。と。通。り。小。事。と。ま。ま。れ。と。い。ふ。と。又。横。ら。れ。拍。越。中。に  
 予。領。か。も。け。佐。又。閣。る。る。悪。彼。又。獲。ま。し。と。て。ま。ま。智。雲  
 士。と。擇。で。越。中。に。持。を。り。魔。下。の。諸。多。へ。嚴。密。と。云。後。これ  
 加。賀。越。前。も。も。遣。ま。け。り。我。又。天。心。二。三。甲。兵。の。三。月。又  
 あり。復。佐。永。より。友人。の。使者。と。い。ふ。越。前。又。送。り。洛。中。洛  
 外。の。國。の。戻。風。一。雙。保。氏。由。洛。の。戻。風。一。雙。何。れ。も。特。許。家。源  
 か。り。と。扱。彩。を。さ。り。と。保。佐。へ。を。せ。ら。れ。保。佐。又。惡。越。の

武田佐也

元

成







約用先云とぬ。その意と伺まへて是光慢よ心を  
云上りの思入りども。毛采なれども。信云云他界後と  
中云がらも。累年尚家の又故する後信と中合ひ  
一人の小多と攻めんとす。実又その由世と成てり。予矢  
妻たるは似く。隣玉の事といひ。諸君の朝や夕はれん。最  
後信とれり。この由世云いれども。未干同云の事  
バ。後信も信又云と添てて遮ける。猶於亦悲改て。実又信  
云逝去ちてあり。予策の名とわんといひ。予恥辱と為る  
バ。後信の懇情するこそあれども。汗流る難し。返答の旨  
友人よりし。申へべしとて。奥又入しければ。友人致て承け  
儀衣立し使者よりし。後邊の返答も及ばしとて。態とそ

修くて目と終る。後信大又立版を。予別又勝れが武  
威と情とと格と遂んといひあり。信云死後又及び若  
輩の猶れが。目下は予ははる。後永と故又うけり。後り  
ちくむんと。哀憐の心よりと。云送しものを予中意如  
きむらふ。予末の武威と卒し信云が死するに。味方怪  
色の思をば。石村又推うけ。甲鍬一巻又踏送けれ。予ハ  
却るをと考り。又又武田の領地へ出るころは。是又此然  
情を感せり。返答苦悶あり。猶於人ときる時。予也  
後必小身が。ある國家と亡れんと。予が示し。嗚呼憐  
をしくと。又嘆息とぞおれけり。

謙信陷七尾城事



備も上牧狸虎入乃謙佐に。武田猪野園主せざるに後家一子  
 とん。小山家の降と碎。漸く上洛又おひしうんを。領土の勢  
 成督按と。天正二年秋七月と自越府とぞを發ある。おは  
 んと。上牧孫五名我春。並に山城と兼佐。柳崎和泉守  
 宗舎。少条丹後守長五。中条越前守宗資。長尾隆四郎宗  
 政。本庄元也守兼秀。竹腰三河守朝経。川田忠孝守長親  
 寺又分監物。長沢法隆守。村田与十郎。鬼小幡孫五名。織上河  
 外。上牧彼中守。月清少考と始して。勢勢二万餘騎とを  
 守と。かて渡も越中よおひ。柳崎と先子して。神保安  
 藝守長純が居城本社の城へ走ると推寄一と。城が長純  
 へ。上牧勢よも亦方よも亦まじきと思ひ入りり亦りれん

は

守防の俘獲も及ぶこそ。上と下と猪野兩。小山家一  
 勢とを。妻も一族と引合。搦まよる。逃しければ城  
 兵。おしと。まのけけ。白昼の奔走。若衆。あつる。形勢  
 あり。か。謙佐。徳と入城有て。そ。後。今。田。表。表。を。と  
 焼傷まよる。若林能中守勝盛が籠る。山の城。又。向。例  
 の物崎和泉守と先鋒して。城と攻寄。城が若林と進出。入。代  
 け。西。又。普。淨。院。ま。ま。より。如。堂。へ。お。入。松。任。小。松。へ。れ。ん。と  
 軍。派。も。亦。有。能。登。玉。守。白。山。義。隆。世。と。強。て。あ。し。と。家。老。共。獲  
 達。と。起。毎。害。と。あ。て。皆。小。山。方。又。越。頃。而。七。尾。の。城。も。籠  
 と。教。家。と。款。討。の。包。と。見。し。後。佐。加。賀。又。入。の。後。と。新。切。ん。と  
 ぞ。搦。り。け。り。小。山。の。渡。中。へ。ま。け。れ。ば。後。佐。大。又。怒。れ

織

相







マカ  
の  
間

守。小条丹後守と副。二千余騎にて推しつけさせ、大子の方へ  
 へ。自衛軍と居て、美濃守らる。炮煙天とくしり。傾勢の地を初  
 りせり。城中より大将の長討するも、同い右衛門尉。矢倉は  
 上りて。美濃守と吃とて、しけり。此の字の旗。先は翻大根  
 の折りけの馬。進々と進来るも、大は移る。今曉又於  
 故の趣、大は上救後佐。自衛軍は先達て、美濃守らる。數日の攻  
 城と目ださく思ひ、一巻に攻抜んとす。横兵とまを覚る。何  
 程の事ある。おの、骨と盡して、名をる。上救後佐  
 とお挫て。武名と万世と揚よとて。諸軍は、  
 傳。究強の兵士と大子に、持口とて増加て。矢石と飛せ

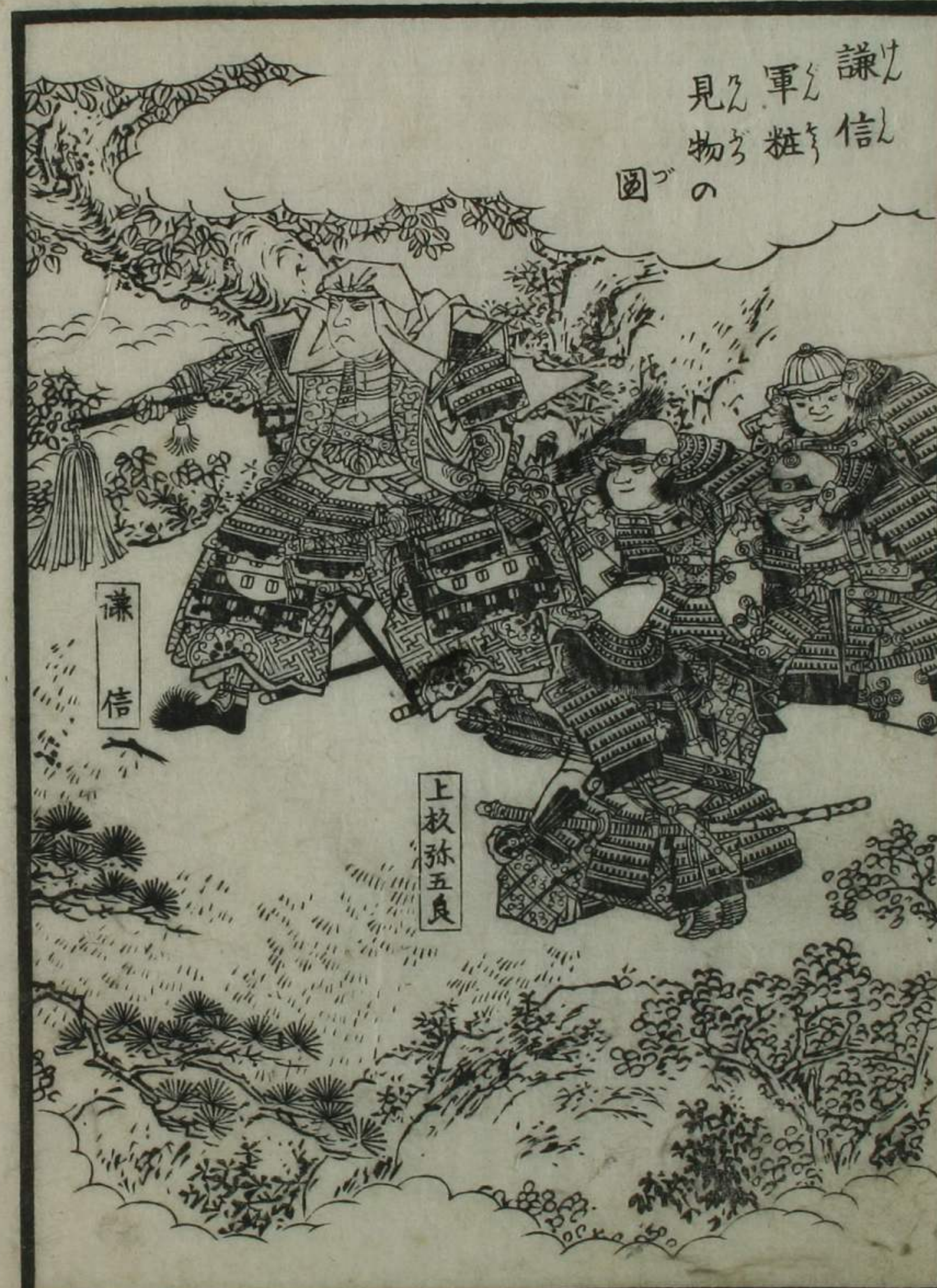
才家

城中守術嚴として攻落し、かく。千と山家より後佐  
 五人とて。何卒、早く接んど思慮とて、けり。城  
 中又左。佐佐良能と時高と。細少の時。親しかりける。依  
 密に又使しん。云きける。援へ尚城の防戦とある。小島の援兵と  
 佐より外せけん。然れ、須勢、只長治の一揆、起し、佐永又  
 子、佐又是と向へ。尚子に如勢、只ひも、佐。佐は落城、且夕  
 又在る。各が命も、亦且夕と迫る。予、先方、身、旧文の情、廢る  
 に、忠、依て、後佐又云て。美方の切と。新。旧領子細うた。又、  
 又、城内外の密計と。一巻に城を落す。小勲功とる。と、  
 け、佐佐良能、早達、是、又、同、密、又、推、紙、と、秘、計、と、  
 たり。佐。謙、佐、是、と、悦、表、出、て。別、諸、子、と、分、九月十日の、掛、曉





謙信の  
軍粧の  
見物の  
図

























夫婦と搦捕せし。孔明しける。え来へ甲辰の者あり。妙歌と  
いふ。傍より。又女の伝。岩村田の百姓等。ちと。いふ者の妻。成  
し。と。法花伝作の余り。妙歌が。と。いふ。つれ。を。返。て。来  
り。尚。よ。は。な。ま。婦。と。り。け。る。が。妙。歌。も。女。と。持。て。ん。家。門。の。修  
り。も。も。り。が。く。遂。に。お。し。る。業。と。あ。り。人。と。感。え。せ。て。世。と。後。に  
也。と。越。方。と。白。状。し。又。そ。の。業。に。病。人。の。妻。と。り。よ。来。し。妖。術  
と。ん。狸。狸。の。孫。と。母。を。借。己。鬼。と。看。取。ら。ぬ。よ。と。あ。り。て。お  
孫。の。料。と。負。る。り。あ。く。い。ひ。に。後。伝。云。の。所。名。は。柳。く。鹿。鹿。魁  
も。集。る。ば。柳。も。お。し。れ。ど。い。と。く。や。あ。ら。う。さ。は。は。後。作。向。後。へ。去  
と。て。罪。と。謝。ら。う。と。依。五。取。別。教。百。の。教。と。搦。せ。て。後。夫婦。は。よ  
ふ。と。返。れ。る。せ。け。る。よ。彼。約。者。狂。歌。目。と。唱。つ。所。の。口。す。ぐ

時

斯く

引。き。け。る。が。愛。と。返。致。し。け。る。よ。顧。て。曰。雲。山。寺。子。と  
半。僧。の。あ。り。を。抱。き。寺。主。善。薩。の。女。と。妻。樂。と。善。薩。の  
ひ。ぢ。と。嫁。不。理。善。薩。の。杖。本。と。遊。り。ゆ。り。者。者。の。け。と。か。ら。れ  
あ。る。家。も。亦。家。門。の。あ。り。敬。遠。は。遠。の。い。ち。と。り。よ。り。と。利  
口。弟。也。も。夫婦。を。推。して。を。立。去。り。る。ま。う。後。に。能。越。支。玉。の  
民。家。又。怪。矣。あ。る。因。に。越。後。の。後。伝。来。り。あ。ら。う。と。唱。へ。て。そ。の。あ  
の。け。と。懸。る。り。あ。ぞ。成。り。の。実。は。後。伝。の。武。威。の。列。來。也。名。は。成  
唱。く。と。ん。の。如。し。傳。言。魏。の。張。遼。が。名。と。呼。ぶ。江。東。の。小。火。亭。位。と  
止。し。あ。も。勝。り。たり。と。て。人。皆。古。と。言。て。怖。と。る。そ。の。武。徳。と。作  
る。事。神。の。如。し。と。あ。り。け。る。惟。は。彼。日。蓮。宗。の。約。者。狂。と。い  
ふ。い。ふ。も。畏。し。武。田。伝。云。の。明。智。は。依。り。甲。辰。と。返。れ。今。又



列傳方記二卷卷之十



二十



列傳方記二卷卷之十

十九

妖人  
武威  
怖  
固



織田

織田

上杉謙信の武名又碑を立て能成と辨えれ。史婦亦流傳  
 及孫井が絶世の名也。お公の齒牙又かゝる。奇と云ふんゆと  
 やまの奇妙の後号も亦名詮自性なるべし  
 上杉謙信向小多軍軍  
 能成と既又上杉家の武威又服と。加及又於小多  
 家より極密とい。種々とも入らるれば。及心の者多くと  
 大略款と成ける。ありむらじけき。後佐先是と征くと  
 上洛の乃長らとひききまぐしと。遠又波船有く天正三  
 年壬辰八月中旬。柳崎。長尾。竹股。本店。新津。小糸。川田  
 山吉等の士大勢を始して。惣軍三万八千餘騎を引率而越後  
 春日山と雷敷有て。吉田より。くひき動と征て。越中と越て。加賀山と

へて。松任へとぞ推考らる。は知らん。小多方。麾下の猛將。甚  
 本右衛門尉秀経とらけき。後佐の叢向とす。小  
 多家へ云通し。防戦の術と盡し。あふと方らむ。小多  
 後佐と征て。越中よりおとせ。一季に後佐とおおんと  
 孫多とゆ。矢石と戦。要害とめて。結うける。山下  
 小多佐永ハ越前又まける。基本のほを。とす。五万  
 餘の大軍と征。松任の後佐として。大軍と入。後佐  
 の後と迫り。城兵とほ。追崩さんと。竹策とす。庄  
 幸塚又本庄と居。さけね。先子ハ清井。小松。本庄と  
 せ。越前後佐。離倫鬼假の名將とれ。度千機と察して  
 八月廿七日の覺天。又惣勢と。短兵急と。責考。二討と。松任の城

戦功記二篇

上杉謙信の武名又碑を立て能成と辨えれ。史婦亦流傳  
 及孫井が絶世の名也。お公の齒牙又かゝる。奇と云ふんゆと  
 やまの奇妙の後号も亦名詮自性なるべし  
 上杉謙信向小多軍軍  
 能成と既又上杉家の武威又服と。加及又於小多  
 家より極密とい。種々とも入らるれば。及心の者多くと  
 大略款と成ける。ありむらじけき。後佐先是と征くと  
 上洛の乃長らとひききまぐしと。遠又波船有く天正三  
 年壬辰八月中旬。柳崎。長尾。竹股。本店。新津。小糸。川田  
 山吉等の士大勢を始して。惣軍三万八千餘騎を引率而越後  
 春日山と雷敷有て。吉田より。くひき動と征て。越中と越て。加賀山と

燕



と攻落し。城を益本右衛門尉秀が頭を切て。並に直に  
 夏目軍八と役共して。母木が首級を齎せし幸塚の中家  
 の渡り送りて。今度高表後信とて。相公着陣むしこと  
 糧虎も終。大志仕所也。定か益本が吊の一致可也となん。依  
 明朝を度へ推しけ可也の事。然候は可被ふた。此後然と云  
 進の口の口とて送りければ。佐永列于使者夏目軍八は  
 対面もて。作越るるの旨も知仕候。いづも明朝信清中  
 度くゆとの返言もて。使者を返されけり。又と教方も終に  
 夏目と役共るる世のら。後佐黄昏より諸軍又去船と下知  
 一。夏目既も相し取。夏目軍八馳攻て。中家家の返言  
 を云と一ければ。後佐おすもて。さるる今より推考て

神速は難破らば。佐永と付れ奉。學立。彼が大軍。隊伍細い  
 ぶる先は推考らべとて。柳崎和泉守と先鋒と。本庄  
 貞仙守。新井丹波守。長尾推四良。竹段三河守。息少孫  
 たる。鐵上那介等の驍將猛率。勇威を以て推考せし決て  
 熱大に上。拔強信儲守と帥て。勢よく進れり。勢の猛虎  
 の群羊を睨て。嶋とつら。又さるる。殺万の松明天と焦し  
 煽たる猛勢ありとを拂へ。何れの故乎。是又對へんせ  
 ありと云。若くそ安うりもと

池清

二



